

女の甲子園

あきらめず勝ち取った優勝

第40回全日本きもの着付選手権大会留袖の部優勝

高橋 美紀子 さん



第40回全日本きもの着付選手権大会が7月22日、よみうり文化ホール(大阪府豊中市)で開かれ、留袖の部に出場した高橋さん(常盤台)は、チャンピオンの座に輝きました。

この大会は、日本伝統文化の研鑽と継承のため、速く美しく着付ける技術を磨くことを目的に、地区大会を勝ち抜いた女性によって競われます。夏の高校野球児たちが甲子園を目指す様に「きもの着付の女の甲子園」として、NPO法人日本礼美協会・日本和装学園が実施しているものです。

大会には「留袖の部」「振袖の部」「目隠し着付の部」の3部門があり、予選8分、決勝6分の制限時間内で、礼節を基本とした美と技を重要ポイントに、着付けの所作やしぐさ、表情を審査します。

着付けを始めたのは社会人になってからで、母の代わりに着付け教室の説明会に行ったのがきっかけ。その時講師

が披露した、たった一本の帯から作り出す何通りものきれいな帯結びに感動し、着付け教室に通い始めたそうです。

20代で初めて全国大会に出場してから、全国レベルの高さに幾度となく挫折しそうになりましたが、決してあきらめることなく全国大会での入賞を積み重ね、今回念願の優勝を勝ち取りました。優勝の瞬間は、驚きとうれしさがこみ上げ号泣してしまっただけ

です。優勝の秘訣を尋ねると、「先生からのアドバイスでインパクトのある帯に変えたおかげです」と謙虚な高橋さんですが、本人の確かな技術があるからこそその優勝です。

今後は、「講師として着付けのすばらしさと技術を後輩たちに指導していきたい。そして目隠し着付の部で新たに優勝を目指したい」と受賞した金メダルを手に、笑顔で話してくれました。

博物館たより

民俗村の民家を楽しむ①

開村20周年企画展を開催中！



民俗村を構成する茅葺民家10棟の特徴とそこでの暮らしを紹介する企画展を開催中です。村内には旧南部藩の民家4棟と旧伊達藩の民家6棟が移築復元されています。例えば旧南部藩の民家には、4棟とも家の中に馬屋があり、馬を大切にした馬産地ならではの特徴が見られます。会場には各民家の模型のほか、火除けのために祀ったカマド神などの民俗資料約20点を展示しています。会期は11月4日(日)まで。この秋、民俗村の通になってみませんか。

博物館・みちのく民俗村 立花14-59 ☎64-1756

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：12月1日～3月31日の期間は月曜休館(祝日などの場合は翌日)、12月28日～1月4日

入館料：一般500円、高校生240円、小中学生170円
(20人以上で団体料金となります)



中央図書館 ☎ 63-3359 江釣子図書館 ☎ 77-2215 和賀図書館 ☎ 72-2322
中央図書館のホームページ <http://www.library-kitakami.jp/>

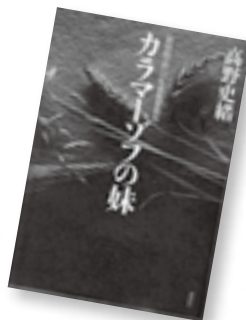
《9月の新着本から》

▼ 一般書	確証	今野 敏
	スウィング・ジャパン	秋尾 沙戸子
	空飛ぶ広報室	有川 浩
	白ゆき姫殺人事件	湊 かなえ
	ご近所美術館	森福 都
▼ 児童書	もらい泣き	沖方 丁
	Q & A 式自転車完全マスター	こどもくらぶ
	凸凹ぼしものがたり	あんびる やすこ
	けん玉の技 1 2 3	日本けん玉協会
	身近で観察するコウモリの世界	大沢 夕志・大沢 啓子
	泣いた赤おに	浜田 広介
	おひさまのたんぽぽスプレー	茂市 久美子

《おすすめ新着本》

『カラマーズフの妹』

高野 史緒／著
講談社



不可解な「父殺し」から13年。有名すぎる未解決事件に、特別捜査官が挑む。ドストエフスキー「カラマーズフの兄弟」の続編に堂々挑戦したミステリー小説(第58回江戸川乱歩賞受賞)。

『放射線の大研究』

原子力教育を考える会／監修
PHP研究所



「原子力とは何か」からはじめ、原子力発電の原理や発電に伴って出てくる放射線が人体にどのように影響するのかなどを、イラストと共に解説。放射線から身を守るための方法も紹介します。

《10月のイベント情報》

■おはなし会

10月14日(日) 午前11時～11時30分 中央図書館
10月21日(日) 午前11時～11時30分 江釣子図書館

■こども映画会

10月27日(土) 午前10時30分～11時30分 中央図書館

東日本大震災から早一年半。復興の様子を見るため妻と二人で沿岸に向かう。遠野から笛吹峠を通って大槌町へ。昨年3月の光景からは瓦礫が片付いただけで何も変わっていない。ポツンと一軒、タクシー会社や傷んだ社屋で営業をしている。観光客だろうか、あちらこちらにたまたま、辺りを眺めている。町外れの海鮮食堂は、午後2時にもかかわらず10人ほどが席待ちをしていた。お盆のためか、大家族での来店が多い。中には仮設住宅からの人もいるのだろうか。明るく話が弾んでいる様子に少しほっとした。穏やかに青く輝く大槌湾を眺めながら、自宅へまだ帰られない人たちがいることを考えた。国道45号を南下し、釜石市街地へ。震災直後は流された

沿岸被災地を巡る



車の残骸で見るも無残な姿だったが、商店街のアーケードが撤去され、街全体が少し広くなった感じである。営業を始めた商店もあり、少しずつ復興が始まっているようだ。盆の墓参りか車の往来も多く、人々の表情は明るい。更に南下し、被害の大きかった大船渡駅周辺を通る。数年前にも来たが、かつての賑わいはなく、沈下した土地に海水が溜まっている。かさ上げされた道路だけが印象的だ。鉄路復旧のめどが立たなければ街の再生も難しい。陸前高田市に入ると、昨年と変わらず、積み上げられた瓦礫が目に入ってくる。奇跡の一本松の周辺には多くの帰省客、観光客が集まっていた。何もない海岸にしっかりと立っている姿に希望を感じる。一億円以上かけても保存しようとする陸前高田市民の気持ち、ここにきて初めて分かるような気がした。復興にはまだ遠いが、どうかしようとしている人たちは確実にいる。その人たちをしっかりと応援したいと、改めて思う今回の視察だった。